

生伴奏で中学生たちに贈り物!

●市立飯沼中で「音楽の都ウィーンからの贈り物」
今日午後1時50分からは、春日部市立飯沼中学



〔ピアノの生伴奏で3曲〕



〔野田校長(右)のご紹介で開会〕



〔歌を披露される富田様〕



〔歌を披露される富田様〕



〔講演会場の体育館の様子〕

校での「**音楽の都ウィーンからの贈り物**」出張講座でした。声楽家・富田千種様から、音楽の都ウィーンについての紹介と声楽指導、歌のご披露をいただきました。

事前の打ち合わせで、野田隆幸校長先生から「富田様が歌われる時に、伴奏を音楽科の高橋法子先生にお願いしましょうか」とのお申し出をいただき、出張講座で初めて生伴奏が決まりました。1か月前に3曲の譜面をお渡ししたのですが、高橋先生には随分とお時間を割いていただいたようで、演奏はバッチリでした。

給食をいただいた後の約20分間でリハーサルを行い、いざ本番へ。講演会の最初は、富田さんの歌声3曲。最初はモーツァルトのオペラ『魔笛(Die Zauberflöte)』の中から『俺は鳥刺し』(パパゲーノの aria)でした。木管楽器パンフルートの音を皆さんが楽しんでくれました。

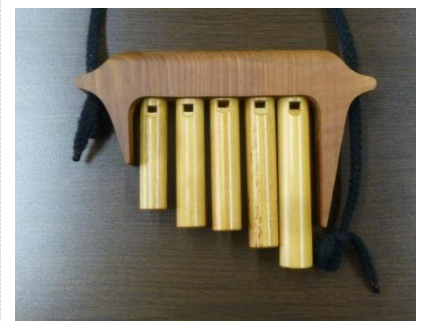
鳥を捕まえては女王に献上して暮らしていた鳥刺しのパパゲーノが陽気に歌い上げる曲ですが、パンフルートは、富田様特製だそうです。

2曲目は曲調も面白い「かごかき」。浪速言葉に生徒達の笑い声も大きく。

3曲目は「帰れソレントへ」を日本語で歌われました。

続いてスライドを使ってウィーンの町の様子、ウィーンが音楽の都と呼ばれる理由などが語られましたが、生徒達にはピンと来なかったようです。そして、富田様が音楽を好きになった理由やウィーンと日本の教育制度の違い、ウィーンの町の様子などが話されましたが、富田様も反応の少ない生徒達にちょっと戸惑われたようです。そこで「カラオケを上手に歌いたい人」と尋ねると殆どの生徒が挙手、声楽指導になりました。「腹式呼吸」の大切さを説かれ、吹奏楽部の皆さんに壇上に上がってもらい、個別指導。さすがに吹奏楽部の皆さんはできていました。最後は和やかに講演会を終了しました。

お礼の言葉を生徒会長の女性から「私はドイツ語が好きなので、最初のモーツァルトの aria がドイツ語で歌われてとても幸せでした。貴重な体験をさせていただきありがとうございました」とのお礼の言葉がありました。富田様からは「グローバル化が進む中で、語学は大切です。まずは英語をしっかりと身につけてください」とのメッセージも。



〔富田様特製のパンフルート〕



〔スライドを使ってウィーンを紹介〕



〔吹奏楽部の皆さんを壇上に上げて腹式呼吸の指導を〕



〔生徒会長から花束の贈呈〕